

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	小倉暢之		所 属	工学部 環境建設工学科		
	職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	学部及び大学院における建築計画学関連諸科目を担当し、学習意欲の向上を図る。演習では積極的にTAを活用し、きめ細かな指導体制を形成し、学生の意見聴取及び学習相談を行う。		0.30	学部及び大学院における学生授業評価ではTAの積極的活用により良好な評価を得る事ができた。また、ゼミでは学部生3名、院生前期課程1名、後期課程2名の研究指導を行った。さらに海外協定校との学生交流をタイ・キングモンクット工科大学建築学部及びチュラロンコン大学建築学部の学生5名を2ヶ月間研修生として受入れ、日本人学生とのワークショップも行った。	
研究	0.30	大学院生と共に研究した成果を国内外の論文に投稿する。また、国際交流協定締結校との研究交流を推進する。科研費(海外B)獲得に努める。		0.30	大学院博士後期課程院生等と共に日本建築学会論文集に2編掲載され、国内外論文にも掲載された。また、国際交流協定締結校との研究交流推進では、コンケン大学と都市の集合住宅に関する調査研究を行った。科研費申請では海外Bに申請した。	
社会貢献	0.10	日本建築学会沖縄支所長、那覇市建築審査会会長等の各種委員として県内建築関係者及び市民に活動を通して社会貢献する。		0.10	日本建築学会沖縄支所長、那覇市建築審査会会長その他、建築士会沖縄支部常任理事として各種公共建築設計競技の審査員等を担当する等、広く社会に貢献した。	
管理運営	0.20	国際交流担当副学部長、建築コース主任の他に各種学内委員を務め学内の管理運営に寄与する。		0.20	副学部長として、国際交流を担当し、本年度はミャンマーのヤンゴンコンピュータ大学及びバングラデシュのラジシャヒ工科大学との部局間交流協定に寄与した。また、学内では国際交流員、企画戦略会議委員等、多様な業務を担当した。さらに建築コース主任としてコースを支障無く運営した。	
進路指導	0.10	4年次学年担当、及び研究室学生院生の指導教員として進路に関する相談指導を行う。		0.10	学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に対応し、就職希望学生の就職を決めた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		清水 肇	所 属	工学部 環境建設工学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	専門教育、共通教育の授業を、学生との意見交換方法などを改善し効果的に実施する。 建築コースの一年次指導教員として新しい初年次教育科目を構築する。		0.30	各専門科目について、学生との丁寧な指導を伴う授業を拡大した。 建築コースでは二つの初年次科目の構築について担当し、新しいカリキュラム構成に貢献した。	
研究	0.30	生活空間連研究を進め、学会および学会誌にて発表を行う。 科学研究費(基盤(C))の採択が決定しており、本年度は研究展開のための基盤づくりを行う。		0.30	科学研究費(基盤(C))の初年度の研究を推進し、論文の第一稿を準備した。韓国にある沖縄関連の地域資料を確認し、新しい研究の展開の準備を行った。	
社会貢献	0.15	那覇市景観審議会他の自治体委員の職を通じて地域のまちづくりに貢献する。 学童保育施設整備に関わる施策への関与により沖縄県内の学童保育の改善に貢献する。		0.15	那覇市景観審議会、糸満市景観審議会、浦添市都市計画審議会、八重瀬町景観委員会、読谷村都市計画審議会、読谷村景観委員会等を通じて地域に貢献した。 学童保育施設に関する地域の改善の取り組みに関与し社会貢献を行った。	
管理運営	0.20	学生指導主任、大学院総合知能工学専攻主任、男女共同参画室委員の仕事を通じて学部、専攻、全学の管理運営に貢献する。		0.20	学生指導主任として各種規定の作成および学生の懲罰等に関わる業務を多数行った。総合知能工学専攻主任としては、学務、入試、学位について、とくに組織的転換期における対応業務を多数行った。男女共同参画室委員としては、ダイバシティ推進という新しいステージへ向けた各種新規定体制づくりに関与した。	
進路指導	0.05	1年次指導教員として進路に関する懇談を積極的に実施する。 研究指導を行う学生との懇談と指導を十分に行い、卒業までに各自の進路が明確になるようにする。		0.05	1年次指導教員として、各自の将来像を考えることを含めた初年次教育プログラムを建築コース内で初めて確立した。 卒業研究指導学生のうち1名が民間企業、2名が公務員としての進路が決定した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		堤 純一郎		所 属		工学部 環境建設工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.22	学部課程の授業は確実にシラバスの内容を全うする。さらに、一部の授業は英語で行う。博士前期課程の授業はすべて英語で行う。4人の博士後期課程の学生を抱えるので、博士論文につながる高度な指導を進める。卒論、修論の指導として、確実に毎週、研究室ゼミを行う。				0.22	授業計画はほぼ全うした。シラバスに沿っての授業を計画通り行い、一部に英語での講義を行ったが、残念ながら、英語での講義は不評だった。大学院生の研究指導も順調であったが、論文指導が十分でなかった可能性が残る。				
研究	0.28	中城村と共同で進めているLNGの冷熱利用に関する研究を、今年は研究リーダーとして積極的に進め、実際の産業化できる成果を出す。那覇市役所の環境性能の測定に着手する。建築基準法の改正や環境認証制度の沖縄に合わせた基準設定に向けて、見通しを立てる。				0.28	計画していた実験や測定は、研究室全体の力を借りて、ほぼ実質的に実行できたが、天候の不良や予想外の大雨で測定器を破損する事故があった。今後に向けての研究計画もでき、順調と言える。				
社会貢献	0.25	中城村との共同研究は産業化することが前提であり、直接、地域社会に貢献できる成果を得る。一般授業を2科目、公開実施する。沖縄総合事務局や沖縄県、市町村等の委員会や審議会等の仕事を全うする。NPOや公益法人、学会等の活動を通して、社会に大学の知を還元する。				0.28	民間との共同研究を通しての産学連携、地域の自治体や県、国の関係の仕事等、予想外の多くの仕事を舞い込んでしまい、計画以上に働くことになった。成果は非常に大きいですが、労働時間はかなり延長することになってしまった。				
管理運営	0.15	今年度は多くの役職から離れ、大学、学部、学科の管理運営体制を再考して、今後の方向性を見定める。エコロジカルキャンパス運営委員会では、企画部会長として新しい独自の環境認証制度を企画、設定、実施する。工学部社会連携委員として工学部後援会をより活性化する。				0.15	今年度は比較的役職が少なく、安定的に仕事ができた。全学ではエコキャンパス委員会の新しい方針に従って、内部評価、外部評価を完成させた。工学部の社会連携ではCOC事業や就職説明会の変化に十分に対応できた。				
進路指導	0.10	指導している大学院生の多くは留学生であり、やや特殊な進路指導になるが、世界に目を向けて進路指導する。社会人学生については対象外。4年次の卒論生については、できるだけ大学院進学を奨めるが、就職希望者には確実に希望の就職を実現できるように指導する。				0.07	上記のとおり、工学部の社会連携委員会としてしっかり活動したが、実際の就職活動にかんしては、非常に求人が多く、ほとんど何もしないで学生の就職が決まっていく状態だったので、特に大きな努力はしていない。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		入江徹	所 属		工学部 環境建設工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	建築計画系科目、建築設計製図科目を担当し、学生に国内外の建築に関する最新情報を提供しつつ講義を行う。		0.30	建築計画系科目、建築設計製図の中で、学生に国内外の建築に関する最新情報を提供しつつ講義を行った。その成果発表として、「合同設計発表会」を開催した。
研究	0.30	建築における最先端デザインの探求を実験的に行っていく。		0.30	多くの現代建築の視察を行い、建築における最先端デザインの探求に務めた。
社会貢献	0.15	学会諸事業・学外委員会などを通して社会に貢献する。		0.15	日本建築学会九州支部常議員として貢献した。また、沖縄総合事務局開発建設部建設コンサルタント業務審査委員などとしても貢献した。
管理運営	0.15	施設・環境委員として業務に従事する。		0.15	施設・環境委員として新棟関連などの業務に従事した。
進路指導	0.10	学生が卒業後の進路について検討しやすいよう情報を提供し、相談にのったり指導を行う。		0.10	学生の卒業後の進路相談に対し、情報の提供や準備しておくことなどについて指導を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		渡嘉敷 健	所 属		工学部 環境建設工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	学部の授業、建築設備計画において、昨年度も実施して来た建築設備等の施設見学を行い授業の内容を具体化して学生の理解力を高めたい。建築環境工学演習においても既設のホールの残響時間の測定実験を行いこれまでに得られた研究成果を生かした具体的な実験実習を行っていきたい。大学院の環境騒音特論では研究の環境騒音の調査を授業に取り入れたい。		0.25	学部授業の建築設備計画で施設見学を行った。法文学部人文社会総合研究棟の建築設備全般について施設部の方に説明をお願いして学生からの質問にも答えて頂いた。沖縄電力牧港火力発電所の施設見学で発電の系統の説明をして頂いた。北谷浄水場と海水淡水化センター見学を行った。後日レポートにて感想を述べさせた。学生は実体験が出来たことで理解を深めた。音響実験については新しく完成した残響室無響室ないで残響時間の長さを体感した。大学院の環境騒音特論では大学構内の環境騒音の調査を授業に取り入れた。
研究	0.30	音響材料開発及び遮音構法として産学連携としての技術提供を行い社会貢献を行いたい、さらに外部資金の獲得につなげられるように努力したい。現在行っている航空機騒音の主観評価調査を進めさらにデータ収集を行い研究を発展させて行きたい。国際会議、インターノイズに論文を提出し、発表を行いたい。学会活動として日本音響学科九州支部評議員2年間の経験を生かして学会活動に貢献したい。		0.30	音響材料開発及び遮音構法として産学連携として沖縄の産業まつりでアルミサッシの遮音性能を向上させる発砲ウレタン注入の遮音性能測定を行った。航空機騒音の低周波音調査データを新聞に提供したことで住民にも理解が得られた。測定器メーカーからも測定器の寄贈があった。音響学の国際会議ICBENが2014年奈良県で発表を行い、日本側スタッフの一委員として携わった。学会活動として日本音響学科騒音・振動研究会を3月に沖縄での開催の準備を担当した。
社会貢献	0.25	研究調査で行っている学校施設の音環境調査が新聞報道に公表された事を受けて実施される音響調査に専門家としての技術支援を行いたい。学生実験で行っている既設のホールの残響時間測定データを提供して音響改善のための技術支援を行いたい。行政の委員会に貢献した。沖縄リハビリテーション福祉学院における非常勤講師として教育支援を行う。		0.25	学校施設の音環境調査が新聞報道に公表された事を受けて各自治体からの音響調査に専門家としての技術支援を行った。米軍の新型ヘリコプターの低周波音問題で沖縄県議会で参考人として意見を述べた。学生実験で行っている既設のホールの残響時間測定データを提供して音響改善のための技術支援を行った。おもと会沖縄リハビリテーション福祉学院における非常勤講師として教育支援を行った。沖縄県建築審査会長として委員会を2回行った。4月の科学技術週間で小中高生に対して残響室無響室の見学と音の実験を行った。
管理運営	0.15	工学部と沖縄工業高専との研究を推進する委員会活動を昨年度行い研究交流を実施した、さらに今年度も継続して研究交流に貢献したい。建築コースでのJABEE取得に向けての活動に協力して行きたい。		0.15	工学部と沖縄工業高専との研究を推進する委員会活動が4年目で今回も私の研究室の学生2名の研究交流を実施した。大学のオープンキャンパスにおいて残響室無響室内で実験を体験してもらった。建築コースでのJABEE取得に向けての活動に建築のコース会議で議論している状況である。今後具体化していく中で協力して行きたい。
進路指導	0.05	これまでの就職担当教員の経験を活かし、また授業等では施設見学を通して得られる経験を学生の就職支援に役立てて行けるように取り組みたい。学科同窓会の協力を得て就職説明会を開催できるように努力したい。例年実施している高校訪問の業務をサポートしたい。		0.05	学部学生及び大学院生の就職活動のことも考え、講義の中で、専門性を生かした就職状況等のビデオ等の説明を行い就職への啓発を行った。学生からの評判も良く、学生達の就職活動に生かしてもらいたいと考えている。学科同窓会の起業者の体験セミナーのDVDを就職説明に活用した。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲松 亮	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	講義内容について来れない学生を減らすため、学生の基礎力の正確な把握に努め、講義内容に反映、また指導を行う。実習や演習は学生が学んだ事を強化出来る内容とし、単純作業にならないように工夫する。			0.35	建築基礎情報処理の講義は今年度から内容に大きな変更があり、前年度は15回で行っていた内容を10回にまとめる必要があったが、結果やや詰め込み過ぎた講義内容になってしまった。次年度の講義で改善したい。その他の講義については概ね目標の通りに進めることが出来た。		
研究	0.35	これまで行ってきた研究開発テーマおよび新規テーマについて研究を行う。得られた研究データを成果としてまとめる。専門知識、また関連する知識の向上に努める。			0.35	新規の研究や調査測定を開始したが今年度は測定機器の不具合が多く発生し、修理や校正作業に時間を取られ、データ収集や解析に問題が生じた。次年度の研究に支障が出ないように、測定機器の点検を行いたい。		
社会貢献	0.05	環境・廃棄物関連の特定非営利団体に協力する。県内自治体の環境行政に専門的な立場から協力する。学外にて建築士資格関連講座の講師を務める。			0.15	今年度は環境・廃棄物関連の特定非営利団体から要請は無く、特に協力はしなかった。建築士資格関連講座の講師として半年ほど学外で講座を担当した。次年度前期期間まで継続する予定。		
管理運営	0.15	各種委員会の委員を担当することで管理運営に参加・協力する。環境建設工学科の公式HPの更新・刷新を検討する。			0.05	広報図書委員会の委員として、工学部案内、工学部紀要および工学部広報誌の編集に関わった。センター試験では八重山会場の試験監督を務めた。環境建設工学科の公式HPについては、今年度は進めることが出来なかった。		
進路指導	0.10	円滑な進路指導が行われるように指導教員のサポート、学生に関連情報の提供を行う。			0.10	担当教員のサポートを行い、進路について相談しやすい雰囲気作りに務めた。また、学生に対して就職説明会の開催日時等の周知、就職活動の進捗確認などを行った。留学生や一般学生を帯同し、環境関連の施設や展示会等の視察を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		金城 春野	所 属		工学部 環境建設工学科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.40	設計製図、卒業設計の補助を行い、設計の難しさや楽しさを学生に学びとってもらう。		0.40	設計製図では、授業時間外も製図室をこまめに訪ね、作業する学生に声をかけ、相談しやすい環境になるよう心がけた。また、学生自身で考えを引き出せるように議論を交わした。各学期末には優秀作品数点を選出した合同発表会を開催し、学生と協力して運営を行った。
研究	0.20	沖縄の現代建築の可能性を設計活動を通して考える。		0.20	近現代(復帰前後)の沖縄建築について資料を集めた。特に、琉球政府立博物館(旧県立博物館)については、貴重な資料を収集することができ、次年度の研究に活用していきたい。
社会貢献	0.20	毎年行われている全国卒業設計展の運営を引き継ぎ、学生の活動を多くの方に見てもらう。		0.20	日本建築学会が主催する全国卒業設計展を本学設計製図室にて開催し、学外に向けても告知した。建築コース学生の訪問は多かったが、学外からの訪問者が例年に比べて減少したので、次年度は告知の方法を工夫して改善したい。
管理運営	0.10	委員会の任務を行う。		0.10	委員会の任務を遂行できた。
進路指導	0.10	実務経験を生かしてアドバイスを行う。		0.10	自らも一級建築士を受験し、無事合格することで、学生に建築士試験に向けて、今できることのアドバイスが具体的にできた。また、資格を修得することで、実務においてどう影響するのか、職業指導の一つにできた。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		仲座 栄三		所 属		工学部 環境建設工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	URGCC及びJABEEプログラムに則り、学生から評価される授業を行う。				0.30	JABEE継続審査に対しプログラム長を務める。URGCC及びJABEEに基づく講義を行い、授業内容は学生アンケートで高く評価された。				
研究	0.30	基礎科学・防災工学・海岸工学を中心とし、独創的な研究を推進する。結果は論文等で発表する。				0.30	土木学会論文集1編、海岸工学論文集2編、JCR論文1編、自然災害研究招待講演など、防災研究、流体力学及び弾性力学に係わる独創的研究を行った。土木学会水工学夏季研修講師を務めた。				
社会貢献	0.15	産学連携機構長の立場から、産学連携活動を進める。				0.15	産学官連携推進機構長を務め、ナノテック、アグリビジネスなど全国規模の発表会にて本学のシーズを広報すると共に、産学連携研究の支援を行った。				
管理運営	0.20	副学長として、IT・防災・産学連携に関する運営を進める。				0.20	副学長として、IT・防災・産学連携に係わる運営を行った。				
進路指導	0.05	研究室の大学院学生及び学士過程学生を中心とし、就職活動を助ける。 また、講義等を通じて、キャリア教育を実施する。				0.05	大学院博士4名、修士1名、学士4名の研究指導を行うと共に、研究室に所属した修了生及び卒業生のキャリア教育及び就職活動支援を行った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		森下陽一		所 属		工学部 環境建設工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	<input type="checkbox"/> Aを有効活用した演習科目の充実による構造力学の理解度の改善を図る。 <input type="checkbox"/> を図る。				0.30	・前期の講義科目「建築構造力学Ⅲ」では、演習を充実させ、学生の理解度は改善された。また、後期の科目「地震と防災」においては、PPの有効活用で、学生の理解度は向上した。・その他の科目で「防災工学概論」については、現在進行中の耐震診断、耐震補強の研究成果を取り入れた講義を行い、学生の関心を得られたと思われる。				
研究	0.30	<input type="checkbox"/> 日本建築学会大会学術講演会および日本コンクリート工学協会研究発表会への論文投稿と発表を行う。 <input type="checkbox"/> 調査を行う。				0.30	・現在進行中のRC構造部材の耐震補強に関する研究成果を、日本建築学会および日本コンクリート工学協会のそれぞれの発表会に投稿し、発表を行った。・九州各県の耐震診断結果の取りまとめの作業は終了し、現在沖縄県で進行中の耐震診断結果を追加して取りまとめ中である。				
社会貢献	0.20	<input type="checkbox"/> 建築学会九州支部の構造委員として活動する。 ・沖縄県の既存RC建物の耐震診断審査会の委員として耐震診断を行う。				0.20	・沖縄県の公共建築物30棟程度の耐震診断を行い、その耐震性能を判定した。また、その資料の取りまとめを行っている。・建築学会九州支部の構造委員として活動し、九州におけるコンクリートブロック塀の耐震診断の資料をまとめた。				
管理運営	0.10	・2年生の指導教員として修学指導を行う。 <input type="checkbox"/> 施設整備に関わる総合評価審査への取り組みを行う。				0.10	・施設整備に関する総合評価審査の作業を、延べ4回にわたって行い、評価の判定を行った。・2年生の指導教員として修学指導を行った。				
進路指導	0.10	<input type="checkbox"/> 卒業研究および大学院学生の指導教員として、修学指導、進路指導				0.10	・卒業研究および大学院学生の指導教員として、個別の修学指導、特に外国人留学生に対する修学指導などを行った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		原久夫	所 属	工学部 環境建設工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.45	修士学生及び卒業研究学生指導, 確率及び統計, 土木工学概論, 測量学 I, 土質工学実験A, 土質力学 I 及び演習, 土質力学 II 及び演習, 地盤工学, 土木セミナー, 土質力学特論の講義を実施する。 JABEEプログラム教育委員会における改善WGを担当する。		0.45	修士学生及び卒業研究学生の指導を実施した。確率及び統計, 土木工学概論, 測量学 I, 土質工学実験A, 土質力学 I 及び演習, 土質力学 II 及び演習, 地盤工学, 土木セミナー, 土質力学特論の講義を実施した。 JABEEプログラム教育委員会における改善WGを担当した。	
研究	0.40	圧密沈下解析法, 赤土流出防止技術の開発, 不飽和地盤内浸透流, 地滑り防止を目的とした地盤内調査法の開発に関する研究を実施する。 地盤情報DBの防災および地盤環境への活用に関する地盤工学会研究委員会委員として, 沖縄県における地盤情報の利活用に関する研究を行う。		0.40	圧密試験法の改善, 混合土のせん断特性, 再液状化に関する研究を行った。 地盤情報DBの防災および地盤環境への活用に関する地盤工学会研究委員会委員として, 沖縄県における地盤情報の利活用に関する研究を行うとともに, 九州支部沖縄地区活動として第27回沖縄地盤工学研究発表会を行った。	
社会貢献	0.03	沖縄総合事務局事業評価監視委員長, 沖縄総合事務局開発建設部建設コンサルタント業務審査委員長, その他委員会委員(4)などの公共性の高い委員会に出席し, 専門知識を社会に還元貢献する。 九州支部沖縄地区沖縄地盤工学研究会会長として活動する。		0.03	沖縄総合事務局事業評価監視委員長, 沖縄総合事務局開発建設部建設コンサルタント業務審査委員長, 国土交通省社会資本整備審議会専門委員などの公共性の高い委員会に出席し, 専門知識を社会に還元貢献した。	
管理運営	0.02	工学部安全衛生委員長として工学部の運営に取り組む。		0.02	工学部安全衛生委員長として工学部の運営に取り組んだ。	
進路指導	0.10	環境建設工学科土木コース4年次学生の指導教員として, 学生の修学, 進学, 就職指導を実施する。		0.10	環境建設工学科土木コース4年次学生の指導教員として, 学生の修学, 進学, 就職指導を実施した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		入部 綱清		所 属		
				工学部 環境建設工学科		
				職 名 助教		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	JABEEに沿った教育によって、学生から評価の高い授業を行う。		0.30	JABEEに沿って教育を行った。	
研究	0.40	環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行う。		0.40	環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行った。	
社会 貢献	0.10	環境・防災研究を通じて社会貢献に努める。		0.10	環境・防災研究を通じて社会貢献を行った。	
管理 運営	0.10	工学部選挙管理委員会として、工学部の選挙の運営に努める。		0.10	工学部選挙管理委員会として、工学部の選挙の運営に努めた。	
進路 指導	0.10	学生の進路相談や就職のサポートを行う。		0.10	学生の進路相談や就職のサポートを行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		松原 仁	所 属		工学部 環境建設工学科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	セミナー等において、インターネットを援用した教育活動を実施する(特定国派遣研究者としてカナダ滞在を予定しているため)。その際、学際的な視点から物事を捉える力を涵養する。		0.20	2回/月程度をベースにインターネットを利用したセミナーを実施した。特に、地盤の微生物学的風化作用に関して、国際的に最先端な話題を取り込みながら議論することができた。結果として、学生が筆頭となる論文を国際誌1編、国内誌1編、講演論文を7編、投稿・発表することができた。
研究	0.60	日本学術振興会より獲得した、①科研費(若手(B))と②研究者国際交流事業(特定国派遣研究者)をベースにして、植物や微生物による岩盤風化の研究を進める。		0.60	微生物(<i>Euendoliths</i>)による風化作用に関する数理モデルを世界に先駆けて構築した。特に、先カンブリア時代における風化痕を数理モデルによって再現することに成功した。これらのことは、国際ジャーナル誌に投稿中である。
社会貢献	0.10	アルバータ大学との研究交流を進め、国際的な視点から活躍できるような人材を地域社会へ送出す。		0.10	アルバータ大学との共同研究は、次年度以降も継続することとなり、岩盤の微生物風化に関する実験、フィールド、計算科学的研究を総合的に進めることとなった。
管理運営	0.05	JABEE教育の新しいシステム構築を進める。		0.05	今年度は大半を海外に滞在していたため、具体的な活動はできなかったが、JABEE教育と学部改組に関してはインターネットを通じていくつかの情報を発信することができた。
進路指導	0.05	公務員・企業就職、大学院への進学に関する最新情報を提供する。		0.05	今年度は大半を海外に滞在していたため、具体的な活動はできなかったが、大学院進学に関しては最先端な研究事例をインターネットを通じて学生に紹介し、学問への興味を引き出すことができた(1名大学院進学)。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		藍檀 オメル	所 属	工学部 環境建設工学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・土木コースが目標としている教育を目標とする。 ・土木コースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行う。 ・学生よりの意見などを積極的に考慮し、魅力のある授業を目指す。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・土木コースが目標としている教育を目標とした。 ・土木コースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行った。 ・学生よりの意見などを積極的に考慮し、魅力のある授業を目指した。 	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・査読付き論文の投稿や学会・シンポジウムなどでの研究発表を行う。 ・所属部局以外との共同研究・計測器の開発などを行う。 ・科研費以外の外部資金の獲得を目指す(寄附金, 委託研究など)。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・査読付き論文(6)の投稿や学会・シンポジウム(8)などでの研究発表を行った。 ・所属部局以外との共同研究・計測器の開発などを行った。 ・科研費以外の外部資金の獲得を目指した(寄附金, 委託研究など)。 	
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・学協会の委員会活動を積極的に行う。 ・学協会以外の学外の審議会, 委員会等活動を積極的に行う。 ・国際学術会議の企画・運営や国際会議での特別講演などを行う。 ・国内外の学術論文集・ジャーナルなどの編集員を務める。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・学協会の委員会活動(委員長)を積極的に行った。 ・学協会以外の学外の審議会, 委員会等活動を積極的に行った。 ・国際学術会議の企画・運営や国際会議での特別講演などを行った。 ・国内外の学術論文集・ジャーナル(20編)などの編集員を務めた。 	
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・島嶼防災研究センターの併任教授を務める。 ・学科土木コース教育プログラム実施WGを務める。 ・研究推進委員、附属図書館運営委員会委員などを務める。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・島嶼防災研究センターの併任教授を務めた。 ・学科土木コース教育プログラム実施WGを務めた。 ・研究推進委員、附属図書館運営委員会委員などを務めた。 	
進路 指導	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスパワーによる学生支援・指導などを行う。 ・卒論生, 大学院生の指導を積極的に行う。 ・土木コース2年次指導教員を務める。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスパワーによる学生支援・指導などを行った。 ・卒論生, 大学院生の指導を積極的に行った。 ・土木コース2年次指導教員を務めた。 	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	有住 康則		所 属	工学部 環境建設工学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	学部科目:「構造力学I及び演習」、「線形代数学A」、「橋設計論」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。演習等科目では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用する。各科目について授業改善資料Aを作成し、JABEE委員会で検討し、授業改善に努める。FD活動に積極的に参加する。大学院の講義を担当し、理工学研究科学生1名の研究指導を行う。		0.30	学部科目:「構造力学I及び演習」、「橋設計論」、「線形代数学A」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行った。講義内容等については、PDCAシステムにより授業改善資料Aを作成し、JABEE委員会等で検討を行った。演習等科目では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用した。学部及び学科が開催したFD活動に積極的に参加した。理工学研究科後期学生1名の研究指導を行った。
研究	0.30	科学研究補助金基盤研究(C)「重度の腐食損傷を受けた鋼桁腹板のせん断耐荷力性能評価と機能回復に関する研究」を中心に研究開発を進め、その成果は土木学会論文集、鋼構造工学論文集等に投稿する。学会活動では土木学会「鋼構造委員会」及び「鋼構造委員会アルミニウム構造小委員会」に委員として積極的に参加する。		0.30	科学研究補助金基盤研究(C)「重度の腐食損傷を受けた鋼桁腹板のせん断耐荷力性能評価と機能回復に関する研究」を中心に研究開発を進めた。国内外の学術論文集に2編採択され、更に1編投稿中である。国際会議1編(共著者)、土木学会年次講演会に論文等を5編(共著者)投稿し発表を行った。土木学会「鋼構造委員会」、「鋼構造委員会アルミニウム構造小委員会」に委員として参加した。
社会貢献	0.05	国土交通省「社会資本整備審議会専門委員」、沖縄総合事務局「景観委員会」、「総合評価審査委員会」、沖縄県「公共工事入札契約適正化委員会」、那覇市「都市計画審議会」等に委員(会長を含む)として参加し、専門的立場で意見を述べ社会に貢献する。		0.05	国土交通省「社会資本整備審議会道路分科会沖縄地方小委員」、沖縄県「沖縄県伊良部大橋主航路部設計施工委員会」、「沖縄都市モノレール技術検討委員会」、那覇市「那覇市都市計画審議会」に委員長として、また、沖縄総合事務局「総合評価審査委員会」、沖縄県「公共工事入札契約適正化委員会」等に委員として参加し、専門的立場で意見を述べ社会貢献活動を行った。
管理運営	0.25	教育研究評議会評議員及び副工学部長として、工学部の運営管理について工学部長を補佐する。工学部教育委員会及び自己評価委員会の委員長として委員会を主幹し、特に、大学教育の改善に関する取組状況、中期目標プロジェクトシート、認証評価資料の取り纏めに努める。環境建設工学科土木コースJABEE教育委員会等に積極的に参加し、JABEE継続審査のために委員会活動に努める。		0.25	教育研究評議会評議員及び副工学部長として、工学部の運営管理について工学部長を補佐した。工学部教育委員会及び自己評価委員会の委員長として委員会を主幹し、特に、認証評価のための工学部自己評価書の取り纏めに努めた。将来計画委員会WG委員長として改組の立案、関係書類の作成を行った。環境建設工学科土木コースJABEE継続審査のために委員会活動に努めた。
進路指導	0.10	学生の修学指導、進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に積極的に取り組む。		0.10	学生の修学指導を行い、特に、研究室4年次学生の進学指導及び就職支援を積極的に取り組んだ。就職支援業務の一環として求人希望会社の対応等を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		山田 義智	所 属		工学部 環境建設工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	学部で「建築材料」、「環境材料学」、「線形代数学」の必修科目や、「数理情報処理」、「建築材料・構造実験」の選択科目を学生の理解が進むよう講義する。大学院では「建設材料学特論」で材料学の重要性を理解させる。卒論・修論では、建築材料学の研究の楽しさと建築において果たす役割を教える。修論生には学会発表や査読論文投稿を行うよう指導する。		0.30	学部講義アンケート結果は全て良好であった。大学院講義は、アル骨問題のある橋梁の見学も実施した。卒論・修論の学生にも目標通りの教育ができた。大学院生2名全員に国内学会での発表指導ができた。大学院生1名が建築学会大会で若手優秀発表を受賞し、日中韓の国際会議においてもBEST PAPER AWARDを受賞した。また、現在指導する大学院生2名全員が筆頭で査読付き論文を投稿し掲載された。
研究	0.30	フレッシュコンクリートのレオロジーに関する研究で科学研究費(基盤C)を獲得しており、この研究をさらに進展させる。 また、飛来塩分の輸送量推定手法を用いた塩害環境評価法の確立、塩ビサイディング材のRC構造物の保護効果に関しても着実に研究を進捗させる。これらの研究成果として査読付論文を投稿するほか、外部資金の獲得を目指す。		0.30	コンクリートのレオロジーに関しては査読付き論文1編が掲載された。飛来塩分の研究に関しては査読付論文が1編が掲載され、現在1編を査読付き論文として投稿中である。また、コンクリートの耐久性に関する査読付論文が1編掲載された(合計で採択査読論文3編、査読論文投稿中1編)。 外部資金は科研(基盤C)を継続しているほか、清水建設や他の企業より寄付金として外部資金を得ている。
社会貢献	0.15	日本建築学会材料施工本委員会(建築学会では他委員1件あり)や土木学会等の学会活動や、擁壁製造委員、沖縄県建築審査会会長、その他の県内の各委員としてその責務をはたす。また、日本建築学会九州支部の材料施工委員会委員長としての責務もはたす。		0.20	建築学会材料施工本委員会(建築学会では他委員1件あり)や建築学会九州支部材料・施工委員会委員長、土木学会および日本コンクリート工学会の委員会等の学会活動や、全国宅地擁壁技術協会調査委員、沖縄県建築審査会会長、沖縄県生コンクリート品質管理監査会副委員長、その他の県内の各種委員会に参加して活動を行い、その責務を果たした。
管理運営	0.15	全学および工学部の各種委員を務める。また、教授会や学科会議・コース会議には、積極的に出席して組織運営の一助とする。		0.15	工学部の研究委員会には、出張等で不在でない限り積極的に出席した。また、全学委員会としては、建築プログラムのURGCC委員としての責務も果たした。教授会や学科会議・コース会議にも不在でない限り積極的に参加した。
進路指導	0.10	研究室配属の学部学生(5名)および大学院生(2名)の進路について、十分に把握・指導して有意義な学生生活を送れるよう助力する。 また、建築コース3年次の指導教員としての責務を果たす。		0.05	研究室所属の学部学生および修士学生の進路について、ゼミの後などに相談・指導にあたった。指導した学生は、全員就職(内定)または進学(内定)を果たした。また、建築コース3年次の指導教員として、各種相談や指導を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		下里 哲弘	所 属		工学部 環境建設工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目「基礎力学」、「鋼構造工学」、「構造力学Ⅱ及び演習」、選択必修科目「設計演習Ⅰ」、「道路交通計画」を担当し、JABEEおよびURGCC方針に準じて、教育水準を満たす授業を行う。 ・授業評価アンケート、授業改善報告書の結果を活用した授業を行う。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目「基礎力学」、「鋼構造工学」、「構造力学Ⅱ及び演習」、選択必修科目「設計演習Ⅰ」、「道路交通計画」を担当し、JABEEおよびURGCC方針に準じて、教育水準を満たす授業を行った。 ・授業評価アンケート、授業改善報告書の結果を活用した授業を行った。
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・土木学会、日本鋼構造協会等への査読論文投稿を行う。 ・国際会議等で研究発表を行う。 ・地域に貢献する研究活動(調査、講演等)を積極的に行う。 ・競争的外部資金を獲得し、社会で活用できる技術の研究を行う。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・土木学会の査読論文3編、日本鋼構造協会の査読論文2編の投稿を行った。 ・国際会議2編の論文2編を投稿した。 ・地域貢献する研究活動(調査、講演等)を積極的に行った。 ・競争的外部資金を多数獲得した。
社会貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献として土木学会等の活動へ積極的に参画する。 ・社会および地域貢献として沖縄総合事務局、沖縄県などの委員会へ積極的に参画する。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献として土木学会鋼構造委員会の活動へ積極的に参画した。 ・社会および地域貢献として沖縄総合事務局、沖縄県などの委員会へ積極的に参画した。
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・全学URGCC委員および工学部教育委員の活動を行う。 ・工学部施設環境委員の活動を行う。 ・学科会議、土木コース会議等の諸運営活動を行う。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・全学URGCC委員および工学部教育委員の活動を行った。 ・工学部施設環境委員の活動を行った。 ・学科会議、土木コース会議等の諸運営の活動を行った。
進路指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院進学希望の学生に対する学習および進路指導を行う。 ・民間への就職希望学生支援を積極的に行う。 ・公務員希望学生の支援のため、試験準備の指導を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院進学学生1名に対する学習および進路指導を行った。 ・民間への就職希望学生3名の支援を積極的に行った。 ・公務員希望学生2名の支援のため、試験準備の指導を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		富山 潤	所 属		工学部 環境建設工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 土木コースの目標に照らした教育目標の設定 土木コースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行う。 学生からの意見を積極的に聴衆する。 教育補助者の有効活用, その資質の向上, FDへの参加 大学院の講義において機械学会の認定CAE技能講習会の認定を受ける 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 土木コースの目標に照らした教育目標に応じた講義や授業改善マニュアルに従った改善を行った。 授業評価アンケート等で学生からの意見を積極的に聴取した。 TAの利用, FDへの積極的な参加を行った。 大学院の講義において機械学会の認定CAE技能講習会の認定を受け, 講義を実施した。
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 査読付き論文の投稿, 学会での研究発表を行う。 科研:基盤研究(C)へ取組む。 所属部局以外との共同研究を行う。 科研費以外の外部資金の獲得を目指す(寄附金, 国土交通省研究助成など)。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> A論文2編が採択された。その他発表論文を数編投稿した。 科研費:基盤研究(C)が採択され, 現在研究に取り組んでいる。 前年度獲得した競争的資金2件の研究を実施した。また, 奨学寄付金4件獲得した。
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 学協会の委員会活動を積極的に行う。 学協会以外の学外の審議会, 委員会等活動を積極的に行う。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 土木学会4委員会, 日本コンクリート工学会2委員会の活動を行った。 その他, 県内の審議会・委員会等を多数参画した。 うるま市立与那城幼稚園学校評価員, うるま市立与那城小学校PTA学習支援部部長, 県立与勝緑ヶ丘中学校PTA副会長, 県立与勝高校学校評価委員などの活動も行った。
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 土木コース主任を務める。 学科土木コース教育プログラム実施WGを務める。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 土木コース主任を1年間務めた。 学科土木コース教育プログラム実施WGをと務めた。
進路指導	0.20	<ul style="list-style-type: none"> オフィスアワーによる学生支援を行う。 卒論生, 修士学生の指導を十分行う。 土木コース2年次指導教員を務める。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究指導や修士論文の指導を行った。その結果, 修士の学生は土木学会の全国大会にて, 最優講演者に, また, 学部生は, 日本コンクリート工学会九州支部長章を受賞した。 オフィスアワーやその他学生支援を行った。 土木コース2年次指導教員を務めた。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		中田 幸造		所 属		工学部 環境建設工学科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	できるだけわかりやすく興味を持てるように講義する。講義時間外も随時質問を受け付け、学生の理解が進むように努力する。				0.30	例えば、力学IIIにおいては講義時間中に質問をたくさん受けるよう努力し、講義後も遠慮なく質問するよう指導することで理解が進むように努力した。他の講義においても、パワーポイントを使用するなどして視覚的にわかりやすく興味を持てるように講義した。従って、目標は達成できたと考えます。				
研究	0.30	日本建築学会大会で口頭発表を行う。査読付き論文を投稿する。外部資金の獲得に努める。				0.30	学術研究助成基金助成金の若手研究BがH26年度も継続採択された。高橋産業経済研究財団の研究助成を獲得した。2014年度日本建築学会大会(神戸)で研究発表を行った。2014年8月にカナダで開催された国際会議で研究発表を行った。2015年1月にコンクリート工学年次論文集(査読付き)に論文を投稿した。よって、目標は達成できたと考えます。				
社会 貢献	0.10	平成25年度から沖縄建築士事務所協会耐震診断判定委員会の耐震判定委員を務めており、委員としての責務を果たす。				0.10	平成26年度は、現在までに約60棟の耐震診断の判定に携わった。また、2014年度から学外で1級建築士講座(建築構造)の講師も務めており、学外においても建築構造学のわかりやすい講義に努めた。よって目標は達成できたと考えます。				
管理 運営	0.20	今年度も社会連携委員だが、工学部後援会事務局となるので、責務をしっかりと果たす。				0.20	後援会事務局として、理事会、総会、キャリアセミナー、就職説明会など責務をしっかりと果たした。よって目標は達成できたと考えます。				
進路 指導	0.10	3年次指導教員としての務めをしっかりと果たす。 勉強意欲や進学意欲が高まるように研究室4年次の質問に分かりやすく答える努力をする。				0.10	指導教員としての務めをしっかりと果たした。研究室4年次の質問には分かりやすく、時間のあるときに随時回答した。よって、目標は達成できたと考えます。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		崎原 康平		所 属		工学部 環境建設工学科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	前期の建築構造力学Ⅰの講義(主に演習担当)について、学生の理解が深まるよう講義内容の確立と充実に努める。また、後期の建築材料構造実験では、円滑かつ安全に進められるよう工夫するとともに、理論的な内容の補足説明等も充実させる。				0.30	前期の建築構造力学Ⅰの講義(主に演習担当)について、学生の理解が深まるよう講義内容の確立と充実に努めた。また、後期の建築材料構造実験では、円滑かつ安全に進められるよう工夫するとともに、理論的な内容の補足説明等も充実させることができた。				
研究	0.35	今年度は「レオロジーに基づくフレッシュコンクリートの施工設計法確立のための基礎的研究、基盤研究(C)、課題番号25420585」の研究分担者として採択されたことから、本研究を邁進する。塩害関連研究では、実験データをまとめ論文を投稿する。また、国内発表や国際会議にも積極的に発表し、最新の研究情報を配信および情報収集に努める。				0.30	今年度は査読付き論文を2編、講演発表を5編(国内4、国際会議1)の投稿を行った。				
社会貢献	0.10	日本建築学会九州支部材料施工委員会に参加し、材料施工に関する調査、研究、発表などを行い、建築材料施工分野の先端的な研究技術開発に寄与する。				0.10	日本建築学会九州支部材料施工委員として、九州支部研究発表会のプログラム案の作成、研究発表セッションの座長を務めた。また、今年度から日本建築学会協力委員会委員として、学会会員数の動向や増強策について意見交換を行った。				
管理運営	0.10	工学部オープンキャンパス委員として、琉球大学を希望する学生や社会に向けて積極的に配信活動を行う。				0.10	工学部オープンキャンパス委員として、琉球大学を希望する学生や社会に向けて積極的に配信活動を行った。				
進路指導	0.15	3年次指導教員として、現業実習への対応および準備支援・指導を行う。また、卒業研究生(5人)および大学院学生(2人)への適切な修学指導および進路指導を行う。				0.20	3年次指導教員として、現業実習への対応および準備支援・指導を行った。また、卒業研究生(5人)および大学院学生(2人)への適切な修学指導および進路指導を行った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			